

公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 部分公開
	<input type="checkbox"/> 非公開	

令和4年度第2回浜松市母子保健推進会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年2月16日(木) 午後1時30分から午後3時
- 2 開催場所 浜松市口腔保健医療センター A・B会議室
- 3 出席状況 委員
 [現地参加] 稲本 裕委員
 [web参加] 伊東 宏晃委員、梅ヶ枝 裕子委員、石井 廣重委員、大木 茂委員、
 大場 悟委員、鹿野 共暁委員、神崎 江利子委員、森園 直美委員、
 齋藤 由美委員、
 事務局 鈴木 達夫(医療担当部長)、板倉 称(健康福祉部医監)、
 平野 由利子(健康増進課長)、渥美 雅人(健康増進課長補佐)、
 伊藤 梓(健康福祉部技監)、小山 東男(子育て支援課長)、
 健康増進課職員3名、子育て支援課職員1名
 オブザーバー 精神保健福祉センター職員2名
- 4 傍聴者 4人
- 5 議事内容
 (1) 令和4年度上半期 浜松市母子保健事業 事業実績報告
 (2) 令和4年度上半期 浜松市児童福祉事業 事業実績報告
 (3) 妊娠期を含む若年女性の健康なからだづくり
 (4) 【報告】令和5年度の母子健康手帳の変更について
 (5) 産科・精神科・行政等の連携
 (6) 【報告】健康はままつ21最終評価アンケート結果
 (7) HPVワクチンについて
 (8) 令和5年度 母子保健事業の取り組み
- 6 会議録作成者 健康増進課母子グループ 菅沼
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
 録音の有無 有・無

8 会議記録

定刻の午後1時30分に開会し、事務局から資料の確認、委員の出席数の報告、情報公開の確認、報道機関の取材と傍聴者の了承、精神保健福祉センター職員2名（オブザーバー参加）の紹介を行った。

2 議事

(1) 令和4年度上半期 浜松市母子保健事業 事業実績報告

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】多胎健診の受診券は、妊婦健診の受診券14回を使い終わってから使用することについて県からの指導になるのでしょうか。多胎は早産になりがちであるため週数が決定した券の後の受診券はあまり意味がないのではと思います。

【事務局】県内同じルールでやっています。国から補助をもらい始めたというのも一つの要因です。

【委員】14回の後に多胎の受診券では意味がないように感じますが、これは決定事項でしょうか。

【事務局】決定事項ではありますが、令和4年度から浜松市の受診券は目安の週数をなくしました。多胎の方につきましては、受診券を積極的に使って頂き14回目まで使いきれたらと考えています。

【委員】浜松市はうまくいきますが、例えば磐田市から来ている多胎の方は実質的に多胎の券を使わないのではないのでしょうか。

【事務局】利用する機会が少ないかもしれません。県の方には意見を伝えていきたいと思います。

【委員】GDMについて、素晴らしい事業だと思います。年齢が高くなるとGDMが増加するというのは、出産年齢の関係性を示す上で説得力のある資料だと感じます。会議だけでなく市民の方たちにも出していき活用していければよいと思います。もう一点ですが、この事業における受診勧奨は、GDMにかかった方が内科を受診して、お産が終わった後も定期的に内科を受診することが大きな目標だったと思います。実際どれくらい内科に通っているか等のこの事業の有効性について検証していき、ブラッシュアップする必要があるのではないのでしょうか。

【事務局】市では産後6か月時点で妊娠糖尿病の方にアンケートをしております。回答率は65%ですが、産後1か月～3か月血糖検査を受けましたかとの問いに対しておおむね95%が受けたとの回答をしております。しかし、回答をもらえていない35%については見えていないところです。

【委員】5年ぐらいのスパンで受診してもらおうようなシステム化を検討するための予算をとるにしても、制度として何か検討すべき数字があればと思います。

【事務局】今後専門医の先生等も含めて検討していきます。

【委員】不妊に悩む方への特定治療支援事業が令和6年度で終了というのは、令和4年4月以降から保険適用が開始されたことに伴いということですが保険適用外の方は支援事業が無くなるということでもよろしいですか。

【事務局】現在のご指摘の通りです。今後実際の受診状況等を調査しながら改めて検討していく

必要があると考えています。

(2) 令和4年度上半期 浜松市児童福祉事業 事業実績報告

【事務局】子育て支援課より、資料をもとに説明。

【委員】子育て支援広場ですが、助産師会も妊婦支援で小さなマタニティスクール形式で実施していますが、妊婦さんの参加が少ないです。病院でのマタニティスクールもコロナの影響で中止されていることも多いですが、広場は人数制限など対策をしながら安全に開催しております。出産育児の情報を得る場所として、産科の先生方にも妊婦さんに紹介して頂ければと思っております。周知を強化して妊婦支援を充実させていければと考えています。はますくヘルパーについて1点質問です。新聞にははますくヘルパー利用状況の改善・再検討が載っていました。その中でこども家庭部長の答弁として、利用者状況の分析やアンケートで人数を把握して今後対象年齢や利用時間の制限の見直しについて検討したいとありました。現在1人のお子さんに50時間、双子なら100時間の利用となっておりますが、時間の制限があるために支援者のない双子のお母さんたち等は思ったほどの利用ができないとの生の声を聴いています。今後本当に必要な人には必要な時間をプラスアルファできるか伺いたいです。

【事務局】1点目の子育て支援広場ですが、2月からの妊婦さんの伴走型支援が始まっております。チラシの方に妊婦支援の予定を入れたり、産婦人科の方にも広場の妊婦支援について今後周知していきたいと思っておりますのでご協力お願い致します。2点目のはますくヘルパーの件ですが、分析の中で1歳までに50時間を使っている方が少ない状態であることを確認しております。今後1歳未満となっている対象年齢について、もう少し伸ばすことができるか検討しております。実施できる時期は現段階で申し上げることはできませんが、検討を進めてまいります。

【委員】アフターコロナ・ウィズコロナで、コロナ禍前に戻るのか新たな要素を加えていくのか行政も我々も議論していく必要があると思います。1点質問ですが、特定妊婦のヘルパーについて、行政の介入を必ずしも受け入れていない妊婦さんがいるように感じますがそういった方へのアプローチをどのように考えていますか。

【事務局】特定妊婦に上がった数と養育支援訪問員・ヘルパーにつながった数がイコールではありませんが、必ずしも養育支援が必要ではない特定妊婦もおります。全ケースにおいて健康づくり課と社会福祉課が連携して色々なサポートをアセスメントしながら提供しているところでございます。

(3) 妊娠期を含む若年女性の健康なからだづくり

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】妊婦の体重増加指針の目安が変わったことについて周知は十分との認識でしょうか。

【事務局】令和4年4月からリーフレットを配布しており、こちらを元に必要な人には栄養士が指導をしているところです。令和4年4月から令和5年1月までで栄養士が個別に指導した方が92人、その内半数以上の55人が「やせ」でした。こちらも力を入れていきながら並行して進め

ていきたいと思っております。

(4) 【報告】令和5年度の母子健康手帳の変更について

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】成育基本法により反映されたP.37について、体重などを記入したとしてもBMIや肥満度もわからず、自己へのフィードバックが薄く、個人で記入するため管理もされていかないように感じますがいかがでしょうか。

【事務局】身長、体重のプロットはできるようになってはいますが、実際に保護者の方もしくは子供さんご本人が記録していくためには勧奨の必要性等課題があると思っております。また養護教諭等、学校の方にはこちらから情報を発信していければと考えております。

【委員】養護教諭の方で母子手帳を見ている機会はあまりないように思います。小学生がそれぞれ自己で記載して、小学校で管理する仕組みはないように感じますがいかがでしょうか。

【事務局】小学校での管理は現在ないと思います。市の方で学校での周知は難しいため、学校側に周知のご協力をお願いできるか働きかけていければと考えております。

【委員】見比べができるのでグラフ等があればと思いました。

(5) 産科・精神科・行政等の連携

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】精神科との垣根が少しずつ低くなりつつあることはうれしく思います。医療側のアンケートを実施しましたので、これから妊婦側のアンケートを実施していくと聞いています。浜松市の取り組みが進むことを期待しております。

(6) 【報告】健康はままつ21最終評価アンケート結果

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】委員の皆様のご意見が特にないようですので、次の議題に移ります。

(7) HPVワクチンについて

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】随分調べて頂いてありがとうございました。こちらについて2点問題点があります。1つ目は浜松市がせっかく立ち上がってきたワクチンの接種量が半分まで減ってしまうこと、そして2つ目はキャッチアップ接種が1%までいかず壊滅的ということです。随分色々と対策は考えて頂いていますが、委員の皆様で何かアイデアがありましたらご意見頂ければと思います。

【委員】周りを見ても9価ワクチンが出てから接種するという人もいますので、9価ワクチンが始まれば少し盛り返すかもしれませんが想像よりも現状の接種率が低いと思いました。インスタ等をやるにしてもハッシュタグの付け方一つで変わります。対象年齢の若い方の意見を聞くのも大事だと思います。座談会も親世代から子世代へという意味で効果はあると思っております。

YouTube 等を活用することも必要ではないかと考えます。

【委員】学生に聞いてみたところ、HPV ワクチンの接種の必要性について理解していますが、時間がないことと産婦人科に通うハードルが高いという意見がありました。他の診療科でもできることを伝えていますが、接種場所の周知について必要性を感じました。また、学校で接種が可能であれば、接種率が上がるのではと思いました。

【委員】学校での接種について市の方から相談を受けました。特に9価ワクチンは全例登録であり、アナフィラキシー等の事故の対応の問題や学校でワクチン接種の環境・設備が整っているわけではないこと等容易に実施できるわけではないようです。事務局いかがでしょうか。

【事務局】SNS 活用時にはご指摘の通りハッシュタグ等細かい所も含めて重要ですので連携している SGE プロジェクトさんや市の若手職員等の声も参考にしながら進めていきたいと考えております。また、学校での集団接種も検討しましたが、接種場所を診療所と位置付けなければならないことや緊急搬送があった時の対応、副反応による救護の体制等色々な課題が見えました。長期的な目線で今後も検討していきたいと考えております。

(8) 令和5年度 母子保健事業の取り組み

【事務局】事務局より資料をもとに説明。

【委員】出産子育て応援事業により、こんにちは赤ちゃん訪問の拒否者も更に少なくなるのではと期待できます。妊娠中期の訪問を始めるにあたりご意見ありますか。

【委員】注意すべき点として里帰りや早産の場合は訪問ができないことや流産・死産の方についてはタイムリーに情報を取得できるわけではないため電話掛けによるアポ取りから気を付けていかなければいけないと思います。訪問ではアポ取りに時間がかかりすぎます。浜松市の方でもLINE で情報を流して頂いたり、勸奨ハガキを出して頂く等準備を進めて頂いています。

【委員】令和5年度開始ということで制度設計も進んでいるのでしょうか。

【事務局】制度設計につきまして、助産師会と相談しながら準備を進めております。6月以降を目途に訪問を始めることができるよう進めていければと考えております。

(9) その他

【委員】全体を通してご意見がありましたらお願い致します。

特にないようなので事務局より連絡事項がありましたらお願い致します。

(10) 事務局より連絡事項

【事務局】2点連絡事項を申し上げます。1点目ですが、次回の会議である令和5年度第1回の開催につきまして、7月頃を予定しております。会議の開催日が決まりましたら改めて委員の皆様にご案内をさせていただきますので、よろしくお願い致します。2点目ですが、委員の任期について、令和5年3月31日までとなっております。来年度以降の委員の推薦につきましては、近日中に各所属先へ依頼をさせていただきますのでよろしくお願い致します。任期は3年となります。

以上となります。